新世紀における大学の教育・研究

— 地方大学の想い —

Education and Study at University in New Century

— Expectations for Local University —

三 輪 實

行財政改革の一環として、国立大学の独立行政法人化(独法化)構想が出され、2003年までに実現されようとしている。独立法人化されると、3～5年の中期目標を指示・認可され、その業績評価が行われる。企画・立案と実施が分離されては、大学の真の教育・研究は極めて困難になると予想される。独法化が進めば、各大学は財源確保のため、入学定員増(もっとも、少子化により、学生確保が一層困難になる?)及び授業料の値上げをせざるを得なくなり、国立大学独立行政法人と私立大学法人との差がなくなる恐れがあるとの指摘がある¹⁾。

我が国の国立大学は、歴史、規模、大学院重点化等の面で極めて多様性である。大半の地方国立大学はその地方の学生が過半数を占めており、主要な人材の育成や産業の活性化をはじめ地域に大きく貢献している。独法化されると、市場競争原理の下で、地方国立大学は不利な大学間競争を強いられる²⁾。それによると、例えば、地方国立大学の施設・設備や教職員数等の教育・研究基盤が著しく劣っている。また、地方国立大学の産学連携は中小企業とのものが圧倒的に多く、研究費の大幅な増加を期待することは難しい。さらに、地方国立大学の役割・機能を弱体化させるならば、地方分権に矛盾し、国土の均衡ある発展は困難となり、地場産業活性化の最大の拠点を失い、グローバル化した市場競争原理の猛威に押し流される恐れがあると指摘されている。

独法化に勝ち残るために、業績主義が益々叫ばれ、若手研究者を中心に、個人評価、任期性が導入され、教官の差別化、能力主義(給与格差)が蔓延り、いわゆる優秀な研究者は大都市の大学に集中あるいは海外流出し、地方国立大学の教官希望者が激減する恐れがある。

一方、景気回復の名の下に行われ続ける公共事業一辺倒の税金の多額出資、せめて、欧米並みの科学技術経費への

増額は期待できないものであろうか? 科学基本法に基づく巨額研究費やグループ研究予算の増額はあがるが、理科教育予算は貧弱であり、大多数の研究者は、校費予算の大幅な削減により、研究活動が難しい。

この杞憂が夢であらばと思う。

もちろん、国立大学に改革すべき点がある³⁾のは論を待たない。大学の教育・研究の欠点も多数指摘されている⁴⁾。極めて中途半端な教育を受けた大量の若者を社会に送り出してきたとの批判もある⁵⁾。特に、理工系において、入試科目の減少に伴って、重要な基礎科学の知識の欠落した卒業生が目立つ状況を生み出している。初中等教育のいわゆる「ゆとり教育」が大学教育にしろ寄せられている。大学人が指針を示せず、教養教育や専門基礎教育担当部門もなくさざるを得なかった。自然環境破壊あるいは青少年の凶悪化と中等・高等教育崩壊とは密接に繋がっている。

嘆いてばかりいられない。反省だけで留まれない。

独法化への動きを積極的に活用すれば、大学独自の運営ができ、科学技術教育の個性化が進み、研究者、人材の流動性が高められ、研究が活性化されよう。地方大学の個性化を発揮する絶好のチャンスである。現行の病を治す、大学改革の好機であろう。従来、大学は、使命である真理の探究、科学に重点を置いてきたが、独法化になれば、基礎研究と共に、即戦力の人材育成が要請され、研究は技術がより重視された応用研究に移行し、効率化、速度も要求される。研究主体は個人から集団によるプロジェクト研究が主流になる。

我が国の理工系高等教育は厳しい時代を迎えようとしている。理科離れ、入学生の学力幅の拡大、卒業生に対する社会の要求の高度化等、従来の教育姿勢では対応できない。大学教官の評価が研究評価に偏っており、教育評価を重視し、教育への創意工夫をしなければならぬ。今こそ、教育の本当の意味を考え、人類社会に貢献できる人物を育成しなければ、大学の存在意義が問われる。

高等教育は、高度化した科学技術の維持・発展はもちろん地球生態系の持続的発展に重要な役割を有している。地方大学が生き残るため、地方大学教官の英知が問われる。

参考文献

- 1) 田中弘充、鹿大特集、154号(2000)
- 2) 朝日新聞ニュース、朝日速報版、10月24日号
- 3) 高分子、49、No. 8、520-544(2000)

MINORU MIWA

岐阜大学工学部応用精密化学科 教授
工学博士、昭和59年繊維学会論文(祖父江)賞、平成12年日本陶理工学会論文賞
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
Tel. 058-293-2623 Fax: 058-293-2623
e-mail: miwa@apchem.gifu-u.ac.jp
<専門>高分子物性・加工 高分子系複合材料
<趣味>スポーツ(特に球技)活動及び観戦、麻雀、パチンコ、読書